

009	From Editor
011	表紙の時計／ジャガー・ルクルト「マスター・コントロール・メモボックス・タイマー」
013	Editor's Choice!
018	ジャケ・ドロー「ブティ・ウルミニットレリーフ バッファロー」／「ショパール」LUCXP 漆 丑年
020	ロジェ・デュブイ「エクスカリバー ダブル フライング トゥールビヨン」／「ピアジェ」ピアジェ ポロスケルトン
022	H・モーザー「スイス アルプ ウォッチ」／「ベル&ロス」BR 01 サイバー スカル
024	世界は時計で回っている。
026	ハリー・ウィンストン「ポケットウォッチ・クアドリ・トゥールビヨン・バイ・ハリー・ウィンストン」
028	「イストワール・ドゥ・トゥールビヨン」の最後を飾る懐中時計
031	ジャガー・ルクルト「マスター・コントロール・クロノグラフ・カレンダー」
046	スタイリッシュに進化したマスター・クロノメーター
048	ナオヤヒタアンドコー「NHタイプ1C」／「NHタイプ2A」
050	ヴィンテージ・ウォッチに範を得た「こだわり」の時計たち
052	オメガ「スピードマスター・ムーンウォッチ・マスター・クロノメーター」
054	新ムーブメントを搭載し、往年のスタイルを纏って誕生
	モリッツ・グロスマン「ハマティック」
	研究が進められた意匠が魅力の振り子式自動巻きモデル
	LVMH ウォッチ・ウィーク 2021
	それぞれの持ち味を生かして心弾む時計を目指す
	LVMHグループに属するブルガリ、ウブロ、ゼニス は1月25日にオンラインで本社や時計の製造現場から新製品を披露した。またタグ・ホイヤーは2月5日にボルシェとのパートナーシップとそれを記念した新作を発表。これら4ブランドの主要な新作の概要を取り上げる。
	2020—2021 New Watches
	A.ランゲ&ゾーネ
	「サクソニア・フラッハ」、「サクソニア・アウトサイズデイト」
	オーデマピゲ
	「CODE 11・59 バイオーデマピゲ フライング トゥールビヨン」、「ロイヤル オーク フライング トゥールビヨン」
	リシャール・ミル
	「RM 71-02 オートマティック トゥールビヨン タリスマン」
	エルメス
	「アルソー リフト」、「トゥールビヨン ミニッツリピーター」、「アルソー グランド・リュンヌ」、「スリム・ドゥ・エルメス パーペチュアル・カレンダー」
	ジラール・ペルゴ
	「ロレアート ゴースト」、「1966 イースト・トゥ・ウェスト」

056	タグ・ホイヤー
058	タグ・ホイヤー アクアレーサー バンフォードリミテッドエディション、 タグ・ホイヤー カレラ クロノグラフ ジャック・ホイヤー バースデーリミテッドエディション、 ホーム&ヘルシエ
060	ボームコレクション
062	モデル R500、105ST・SA、105ST・SA・UTC、 フォルティス
064	フリーガーシリーズ
066	オリス
069	カール・ブラシア キャリバー401リミテッドエディション、ホエールシャークリミテッドエディション、 シチズン
070	ゴリラ、アウトロー・ドリフト、 パネライ、ルミノール ルナロッサ GMT-42MM、 ブライトリング、スーパーオーシャン ヘリテージ57 アウターノウン、 腕時計新着情報
072	カシオとアシックスが共創事業を発表
077	ティソ ブティック銀座オープン
078	オメガ、オービス インターナショナルをサポートする「デ・ヴィルトレゾア オービス」
079	ブランパン、オーシャン コミットメント
080	RM、リシャールミル ジャパン基金
081	インフォメーション
082	パネライオークション
088	オークションに出品されたパネライの歴史を語る4モデル
092	再録『世界の腕時計』第10号(1992年5月15日発行)掲載

「ロレックス パネライ伝説のダイバーズ・ウォッチ」

昨年11月30日に香港で開催されたフィリップスのオークションに、パネライが1950年代から1960年代に製作した4点の時計が出品された。そのなかのひとつが奇しくも1992年に発行した小誌第10号の表紙を飾っていた。この号に掲載したパネライの歴史を特集した記事を再録。リシュモングループ傘下となる以前のパネライが記される。

オメガ スピードマスター・ムーンウォッチ・マスター・クロノメーター

新ムーブメントを搭載し、往年のスタイルを纏って誕生

オメガの看板モデルのひとつであるスピードマスター・ムーンウォッチがリニューアルを果たした。月面着陸50周年記念モデルでお目見えした最新のCal. 3861を搭載する一方、その細部には往年のスタイルが見て取れる。

ずいぶん昔のことだが、手巻きのスピードマスターと同プロフェッショナルを
気の向くままに集めていたことがあった。
その時に時計業界の大御所から「スピード

マスターのどこがそんなにいいの？」と真
顔で聞かれたことがあったが、その答えは
明快だ。まず、第一にスピードマスターは
多感な高校時代に、あの素晴らしき月面着

陸を果たした憧れのクロノグラフだった
し、その後も事あるごとにリミテッド・エ
ディションを次から次へと繰り出してく
る興味深い腕時計であったからだ。たぶん、
これまでに登場した限定モデルの数は右
に出るものはないだろう。従って気儘なコ
レクションをするには、打ってつけのリス
ト・ウォッチだったのである。

1985年のムーンフェイズ限定モデ
ルにはじまる個人的なそのコレクション
は、まだプロフェッショナルの名称が
つかない旧モデルや1969年の月面着
陸限定モデル、アポロ11号の10周年記念モ
デルなど……そして新しいところで
は、初代の限定スヌーピー・モデルといっ
た具合に思う存分愉しんだものだ。でも勘
違いしないでほしい。その当時、海外のア
ンティーク・ショップを丹念に回れば32
1モデルは手軽なブライス・タグがつけら
れたものを見つけることができたし、19
69年のゴールド・モデルさえも、ちょ
っと頑張れば購入可能なくらいに……実

に良き時代だったのだ。
さて、その手巻きのスピードマスターは、
2019年にお目見えしたアポロ11号の
月面着陸50周年記念限定モデルや、初期の
手巻き式ムーブメント、Cal. 321の
復刻と実に話題豊富だが、今年からは新た
に「ムーンウォッチ・マスター・クロノメ
ーター」が加わった。

本機をひと口で説明するならば、それ
は各部のディテールを1960年代の
Ref. ST105.012から着想を得
るいつぼう、搭載される手巻き式ムーブ
メントは、最新のCal. 3861を導入
した「新世代のスピードマスター・プロ
フェッショナル」と言えるだろう。これ
までどおり直径42mmのケースに5連プレ
スレットが組み合わされるものの、各部
は細部に亘って変更された。まずブラッ
クの文字盤は、インデックスのほぼ中間
で折れ目を入れた往年のステップ・ダイ
アルが採用され、さらにこれまでは単純
に断ち落としだったクロノグラフ針のカ

2種類の風防。上がサ
ファイア・クリスタル、
下がプレクシングラス。



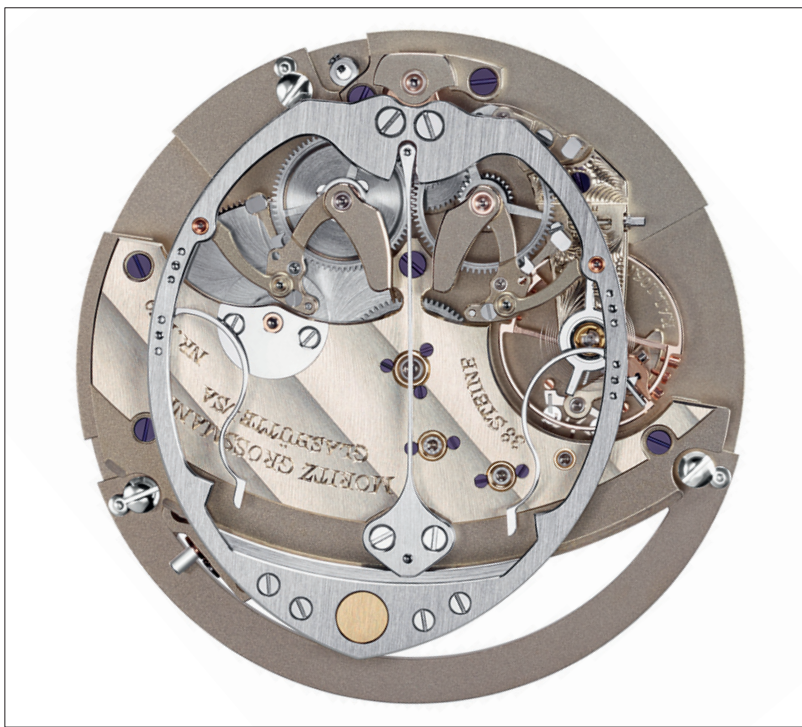
サファイア風防を搭載
したモデルでは、通常
のソリッドの裏蓋が、
シースルー・ケースパ
ックとなる。



モリッツ・グロスマン「ハマティック」

研ぎ澄まされた意匠が魅力の振り子式自動巻きモデル

モリッツ・グロスマンは創業10周年目を迎えた2019年に彼らにとって初の自動巻きを発表した。しかも振り子式という独自の機構を採用。また針やインデックスは実に繊細に仕上げられている。この時計の魅力を探ってみよう。



新しく開発されたキャリバー106.0オートマティック。そのメカニズムは、下側にゴールド製の錘をセットしたスチール製のフレーム(ハンマー)が左右に振れ、その動きが上方の2つのラチェット・ホイールに伝わり、さらにその下側に置かれた減速歯車を経て、最終的にメイン・バレルへと伝達される。

中央を垂直に通るのがハンマー・スプリングで、その上方が旋回点。機構的には両方向巻き上げ式で左右22度の間で振動するが、振れ過ぎを防止するためのエンド・ストップ・スプリングを左右に装備し、各部にはサファイアのローラーが挿入される。なお、細部が実機と異なるのは写真がファイナル・モデルではないため。

たとえば鞘から日本刀をするりと抜いたとき。その時にまず感じるのは、ずしりと両腕にかかる「刀身」の重さである。ここで右も左も分からない素人が

思うことは、果たして江戸時代の人たちはこれだけの重量を本当に振り回すことができたのだろうか？という素朴な疑問であり、続いて感じるのが、刀自体の「反り」が思いのほか強いことだ。むしろこれは、その刀が観賞用なのか、はたまた実戦用に打たれたものかによっても異なるらしいが、とにかく青眼に構えたその日本刀は反りが大きく、どうあがいてみても自由に扱うことは難しい。

と、ここまでで緊張感はずでにピークに達していた。従って、手にはうっすらと汗をかき、精神的にもどこか疲れが出始めていたのだが、何とか気をとり直して日本刀の魅力のひとつとされる——焼入れの際に生じた「刃文」へと目を移す。すると刃先に見えたのはどこか遠く

に浮かぶ雲のようであり、その実態はぴんと張り詰めた一種独特の凝縮感であった。

実は、これは中学生の頃に、18世紀中盤に打たれた備前国忠義とされる日本刀を手にとって鑑賞した時のことであった。言い換えれば、それはまさに極度に研ぎ澄まされた品物をはじめて目の当たりにしたときの感動体験なのだが、そのことを思い起こさせてくれたのは、モリッツ・グロスマンの新作モデル、ハマティックの文字盤を時計用ルーベ越しに眺めていた時のことであった。

比較するために、この目モリッツ・グロスマンのブティックに持ち込んだのは、お馴染みのブルード・スチール製の細いハンドを特徴とするブレゲ・クラシック・パーペチュアル・カレンダーと、まるで懐中時計を思わせる細くて長いローマン・インデックスが魅力的なパテック・フィリップのスーパー・コンプリケ

LVMHウォッチウィーク 2021

それぞれの持ち味を生かして、心弾む時計を目指す

1月25日から同29日までLVMHグループのウォッチ・ブランド4社が新作の発表を行った。昨年は1月13日から3日間にわたってドバイのブルガリ・リゾート・ドバイで開催したが、今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、オンラインでの発表となった。各社はそれぞれ持てる力を生かして異なるアプローチで製品の開発を行っているが、コロナ禍という特殊な状況のなかで多くの人の心に楽しさや明るさをもたらしたい、という点では一致している。ブルガリ、ウブロ、タグ・ホイヤー、ゼニスの主要な新作の概要をみてみたい。



タグ・ホイヤー アクアレーサー バンフォード リミテッドエディション、 タグ・ホイヤー カレラ クロノグラフ ジャック・ホイヤー バースデー リミテッドエディション 方や新鮮な発想、方や過去への敬意から生まれた限定モデル



「タグ・ホイヤー アクアレーサー バンフォード リミテッドエディション」。逆回転防止ベゼルを備える300m防水のダイバーズ・ウォッチ。直径43mmのグレード2のTiケース&ブレスレットに自動巻きのCal.5(25石、毎時2万8800振動、パワーリザーブ約38時間)を搭載する。白のスーパーミノヴァを塗布した時分針の縁取りと秒針の一部にオレンジを使い、ブラック文字盤とのコントラストが際立つ。価格46万2000円。限定1500個。

タグ・ホイヤー アクアレーサー バンフォード リミテッドエディション

前出のジラール・ペルゴと同様に、タグ・ホイヤーからバンフォードウォッチデパートメントとのコラボレーションによるリミテッド・エディションが発売された。タグ・ホイヤーは2018年に「モナコ」を題材にバンフォードとコラボレーションを行ったが、それに続く第2弾で、今回は300mの防水性能をもち、自動巻きのCal.5を搭載する「アクアレーサー」が題材となった。

バンフォードはケースとブレスレットにグレード2のチタニウムを選んだ。既存のアクアレーサーのケースとブレスレットはステンレス・スチール製だが、軽く、強度が高く、耐食性に優れるチタニウムは「どんな挑戦にも立ち向かうタフな時計として知られるアクアレーサーにふさわしい素材」として採用したという。円を描くパターンを施した文字盤のブラックはバンフォードが好むカラーだが、長短針の縁取りとブラックゴールドプレートとの秒針、逆回転防止ベゼルの12時位置

の三角モチーフ、そして文字盤外周のダッシュにはオレンジが使われる。また新たにデザインされた針とインデックスにはホワイトのスーパーミノヴァが塗布され、暗所での視認性が高められた。こうしてブラックとグレー、オレンジのカラーリングが印象的な、既存モデルとは異なる個性のアクアレーサーが誕生した。1500個の限定製造で、チタニウム製の裏蓋には「LIMITED ONE OF 1500」の文字が刻印される。

バンフォードウォッチデパートメントの創設者であり、デザイナーのジョージ・バンフォードは「この限定モデルをデザインする際に、タグ・ホイヤーの過去のモデルから創造的なインスピレーションを得ました。オレンジ色のデザイン・エレメントとスポーティなベゼルは1979年から1994年にかけて発表されたインパクトのあるタグ・ホイヤーの製品を彷彿とさせ、これらは2004年に正式にデビューしたアクアレーサーコレクションへの道を切り開いたものです」と述べている。

〈再録〉

「ロレックス・パネライ 伝説のダイバーズウォッチ」

『世界の腕時計』編集部がオフィチーネ・パネライという名を初めて知ったのは、1980年代後半だった。取材に訪れていたジュネーブで、偶然に出会ったアンティーク・ウォッチ・ショップを経営する知人からオークション・ハウスのアンティークホルムが下見会を開いていることを教えられた。「いったいどんなものだろうか」と興味半分でそれを覗きに行った。そこで目に入ったのが直径70mm近いコンパスや50mmもある腕時計だった。説明には「パネライ製イタリア軍用」とある。当時の編集長は世界各国の軍用時計のコレクターにして研究家であり、それを見た途端に当然のごとく強い興味を抱いた。こうしてドイツ特派員やフランスのジャーナリストたちを動員して、取材を開始した。そして1992年にはその結果を16ページの記事として『世界の腕時計』第10号に掲載。1997年にパネライがリシュモングループ傘下となる以前であり、今日の同社の原点を知る資料のひとつといえるのではないだろうか。

1992年5月15日発行の『世界の腕時計』第10号。

次ページからこの号に掲載した記事を再録(表記は原文のまま)。



【訂正】P94とP95の写真のキャプションが入れ違っています。正しくはP94は「パネライ社がイタリア海軍潜水部隊用に(以下略)」、P95は「パネライ・ダイバーウォッチの代表的なモデルで(以下略)」となります。お詫びして訂正いたします。

KESAHARU IMAI
Publisher

TOMOKO KAYAMA
Editor in Chief

KAZUO TSUBOI
Advertising Director

SHUNSUKE OGAWA
Production Director

HIROSHI SASAGAWA
Circulation Manager

DTP
BASE

Correspondent
Washington, D.C. Bureau
(Pictorial Press International)
Mikako Burks

Cover Photo/
Takenori Aoki (WPP)

●本誌に掲載されている価格は
令和3年2月28日現在の調べによるものです。
本文中の価格は消費税(10%)込みの総額表示
です。
© WORLD PHOTO PRESS 2021

世界の腕時計 定期購読のご案内

毎号、送料無料でお届けします!

お近くに書店のない方、毎号確実に入手したい方
便利な定期購読を是非ご利用ください。
特別定価アップ分、および送料はサービスいたします。

【年間購読料】

1年間(年4冊) **6,704円(税込)**
(3月、6月、9月、12月・8日発売予定)



【お申し込み方法】

- フリーダイヤル 富士山 富士山
- お電話で(年中無休24時間受付) **0120-223-223**
 - インターネットから <http://fujisan.co.jp/sekainoudedokei>
 - 携帯電話から <http://223223.jp/m/sekainoudedokei>
 - QRコードから 上記QRコードからアクセスして下さい。

【お問い合わせ】

富士山マガジンスerviceカスタマーセンター
パソコンサイト: <http://fujisan.co.jp/cs>
メールの場合: cs@fujisan.co.jp
に、お問い合わせください。

■注意事項

- 定期購読の契約は、富士山マガジンスerviceとの契約となります。
- お支払いのタイミングによっては、ご希望の開始号が後ろにずれる場合がございます。
- 地域によっては、発売日より商品到着が若干遅れる場合がありますので予めご了承下さい。
- 定期購読は原則として途中解約はできませんので予めご了承下さい。

「世界の腕時計」第148号は2021年6月8日発売予定です。

【国産ブランドの新作】

国産の各メーカーもオンライン発表および限られた人数での新作展示会を開きます。
春にお披露目された各社の新作を取り上げ、今年の傾向を探ります。

コロナ禍が続くなか、今年もオンラインでウオッチ&ワンダーズジュネーブが
4月7日から同13日の1週間にわたって開催されます。
参加ブランドは40に上り、リシュモングループやLVMHグループ、
パテックフィリップ、ロレックス、シヨパールなどの主要ブランドが
一斉に新作を発表する予定です。ブランド別に主だった新作の概要を紹介します。

【特集】ウオッチ&ワンダーズジュネーブ

編集の都合上、内容が一部変更となる場合もありますので、ご了承ください。

【お詫び】小誌第146号の103ページに掲載いたしました日新堂におけるパテック・フィリップ・アーカイブ申請は、パテック・フィリップ本社の決定により同社公式ホームページ(patek.com)の「Extract from the Archivesセクション」のみでの受付に変更となりました。この決定は2020年12月2日付けで発表されたため、現在は日新堂での受付は行っておりません。読者の皆様には多大なご迷惑をおかけいたしましたことをお詫び申し上げます。

ワールドフォトプレス総合サイト <https://www.monomagazine.com>

WORLD M O O K

ワールド・ムック1242

世界の腕時計

No.147

令和3年4月15日発行

発行人……………今井今朝春

編集人……………香山知子

発行所……………株式会社ワールドフォトプレス

〒164-8551 東京都中野区中野3-39-2

編集部……………☎03-5385-5667 FAX.03-5385-5617

広告営業部……………☎03-5385-1350 FAX.03-5385-1348

販売部……………☎03-5385-5701 FAX.03-5385-5703

印刷所……………大日本印刷株式会社

- 造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がありましたら
小社・販売部宛てにお送りください。送料小社負担にてお取替えいたします。
- 本誌掲載記事の無断転載・複製・転写を禁じます。